



心に響き合った合唱祭

校長 後藤 琢磨

「ご来場の皆様、ハンカチの用意はよろしいでしょうか。」冒頭の挨拶で、そう話したもの、実際そこまで感動するだろうかと期待と不安が6.0：4.0=3:2でした。

しかし、いざ合唱が始まると、その圧倒的な歌声に自然と涙があふれてきました。

涙の要因の一つは声量です。単に大きいだけではなく計算された声量、サビの盛り上がりでピークに達する演出がありました。

要因の二つ目は表情です。口を大きく開けて真剣に指揮者を見つめて歌う姿は、日頃の姿とかけ離れていればいるほど感動しました。



そんな一人一人の物語があっての合唱だから、一生懸命な姿を見ただけで特別な感動が生まれたのだと思います。

合唱を作っていく時、質の高い合唱を目指せば目指すほど、できていない子を責め、関係は悪化します。それを乗り越えるには、相手を思いやる言葉と態度が必要です。この感動は、生徒に思いやりの心が育った証だと思います。

子どもの成長を毎日見ている家族の皆さんには、「もっとちゃんとしなさい。」「人に迷惑をかけないで。」などとつい言いたくなることが多いとお察しします。その度に、関係はぎくしゃくし、ふてくされる我が子に悩まれることが多々あるのではないかでしょうか。

学校も同じです。その子のやる気スイッチはどこにあるのか探し続ける毎日です。

